

一心太助の天秤棒 ～前の籠には責任を、後の籠には信頼を 肩に担いで売り歩く～

越谷市議員 白川 ひでつぐ、
シリーズ/NO 135号



Web サイト



Youtube



Twitter



Spotify

駅頭は小さなドラマの連続だ！

初当選以来6期21年間毎日毎朝続ける東武鉄道の市内6駅での朝の駅立ちは、通算4200日を超えました。私の日々のツイッターのつぶやきから、転載したものを含め、駅前の様々な市民との出会いや何気ない駅前の風景、市民の日常を通した暮らしへの息遣いをエピソード集としてシリーズでお届けしています。

YouTubeの白川ひでつぐ公式チャンネルの登録者は264名を超えました。引き続き配信を継続していますので、これまでのご協力に感謝し、更にご登録をお願いします。

チャンネル登録



朝鮮半島の戦前、戦後の歴史的な日本人との関係性や差別を学ぶ・ウトロ祈念館



京都府宇治市に建設された「ウトロ祈念館」を訪問して、この会館の建設経緯や戦前から今日までの日朝関係の意義と問題点を学んで来た。1940年に京都飛行場の起工式が行われ、そ



の建設に従事するため、ウトロ地区（北海道のウトロでない）にいわれる朝鮮人飯場が設置されたが、朝鮮半島から来た多くの方は、ほとんどが徴用から逃れるために来た人で、いわゆる強制連行ではなかった。

しかし1945年に終戦し、朝鮮人飯場に残された人々への対応はなされず、ウトロ地区は在日朝鮮人の「スラム」として蔑まれるようになった。

日本社会から「置き去りにされた」朝鮮人のまちとなり、水道をはじめ社会的インフラが整備されないまま放置されて来た。

これらの歴史を学びウトロの歴史を記録し未来へとつなぐ祈念館構想が、2007年の「ウトロ街づくり計画」の中、ウトロ祈念館構想も進み、2018年に日韓で「ウトロ平和祈念館建設推進委員会」が発足し、韓国政府の支援金も決定し、建設がすすめられて実現した。

2021年8月30日このウトロ地区で倉庫、民家など7棟が全半焼する大規模な火災が発生し、在日朝鮮人への差別意識から日本人による放火事件が起きたことから、更にヘイトクライムがまん延している。

しかし、この地区の市民はここに生きる人間として日本人とともに地域共同体を大事にして行こうとする静かなしかし心底からの意思を強く感じた。（3月24日・日曜日）

TBS ドキュメンタリー映画祭「リリアンの揺りかご」の監督に会って来た

障がい児の父である報道記者・神戸金史氏が監督したドキュメンタリー映画「リリアンの揺りかご」が福岡市で上映されたので鑑賞した。

3月29日から4月4日まで期間「2024年映画祭」として15の作品が福岡市で開催されており、その一つがこの映画だ。

映画は、相模原市の障がい者施設の無差別殺傷事件や在日朝鮮人へのヘイトデモ等を取り上げ、現在日本の抱える様々な「不寛容」を描いている。「私の子供も殺すのですか？」。

（裏へ）

障がい者殺傷事件（2016年）の犯人に、障がいの父である神戸記者は聞く。

ヘイトデモや歴史改ざんの現場でも、共通するのは一方的な不寛容だ。「無声映画の最高傑作」と評される『イントレランス』（1916年）は、様々な時代の不寛容（イントレランス）を描き、それをリリアン・ギッシュが揺らす揺りかごのシーンがつないでいく。リリアンの揺りかごをモチーフに、現代日本の様々な不寛容を描く、と紹介されている。

この無声映画のシーンで、あかちゃんが横たわる揺りかごを母親が左右に揺らすのだが、どちらが寛容で、どちらが不寛容なのか、赤ちゃんは選びようがない。しかしそれは母親次第ではないのか、その母親とは私たちが暮らしている社会ではないのか、冒頭強く感じてしまう。

そのため、この神戸氏のお話を聞きたいと、私の第二の故郷福岡市に飛行機で出向いた。神戸氏は快く面談に応じて頂いたのだが、氏の友人であるチーム白川の会員である吉田理子さんの仲介によって実現した。

不寛容な社会は深刻な状況を呈しており、そう簡単には寛容な社会が実現しそうにはないが、ヘイトデモの参加者に限らず、我々の中に存在する不寛容とどう市民一人一人が向きあうのかが、強く問われている、とのお話には共感することしきりだった。

（4月2日・火曜日）

3月議会の市政報告会、議会討論の動画を使用した解説が好評



年4回の市議会開催後、定期的に開催している越谷市議会・議員有志の会が主催する「市政報告会」を開催した。

今回初めての会場となったのは、新庁舎のエントランス棟に開設した多目的ホール。

2019年から5年間かけて進められてきた越谷市役所の新庁舎整備に伴う工事が全て完了し、3月16日にはグランドオープンセレモニーが行われた。このセレモニーには、市民活動



団体の紹介や市職員による焼きそばやフランクフルトの出店や綿あめの無料提供等様々なコーナーに市民が列をなしていた。

本年4月1日からこの多目的ホールをはじめ2つの会議室の市民への貸し出しが開始されたため、議員有志の会が最初の使用となった。

市政報告会では、冒頭福田晃越谷市長もゲストスピーカーとして参加して頂いた。

その後主催した超党派6人の議員からは、3月市議会の焦点や争点となった5つのテーマをそれぞれ分担して説明、報告した。

私の担当は、「金権腐敗政治を一掃するよう国に求める意見書」と「女性差別撤廃条約選択制議定書の速やかな推進を求める意見書」。

この中で、それぞれの意見書に反対した自民党や維新の会の議員による本会場での反対討論の一部を画像で上映し、その要旨を解説して報告した。

終了後、参加して頂いた市民の方から、映像がやはりリアルであり臨場感があったが、更に解説が伴っていたので、非常にわかりやすかった、と声が寄せられた。

この間の市政報告会は、会場参加とネット配信を併用しており、会場に当日参加出来ない市民の方もスマホ等で視聴し、質問も可能でありまた後日アーカイブを見ることも出来る。

更に会場とエントランス棟のスペースを歩行している市民や職員、議員からも中の様子はガラスばりになっているので、多くの方が自由に見て「へーやっているんだ」、とか「議員って誰」とか話しながら通って行かれた。

出来れば、議員有志の会に限らず、市議会が主催する全議員が参加する市政報告会の開催が期待されているが、現状議会全体ではそのような意向は残念ながら多数派を形成しきれていない。

ただ、今回の様に市民の皆さんに対して認知度を高めて行く地道な活動を継続して行く事で他議員への賛同を求めて行くしかない。

（4月25日・木曜日）